※令和４年度以降入学生用

学校番号	107

令和８年度　音楽科

教科	音楽	科目	声楽 （合唱）	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	高校生の音楽１（教育芸術社）						
副教材等	＊随時、必要に応じて合唱作品楽譜を購入						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・合唱は音楽科全学年合同で行う授業です。仲間とともに協力し、協働して音楽や演奏をするために必要な協調性を培うとともに、曲種に応じた発声技術、和声感、楽曲分析、実践的な読譜力を向上させ、音楽作りに必要な力や音楽家として必要な総合力を身につけます。
・声を合わせ美しい合唱音楽をするためには特に次のことを重点的に学びます。
　① 確かなソルフェージュ能力に基づく美しいハーモニー作りをします。
　② 美しい合唱の響きを作るための声楽技術を身につけます。（専攻実技または副科実技の応用）
　③ 楽曲（楽曲の作られた背景や歴史、歌詞の内容と音楽との関係）を音楽の諸要素などの根拠を持って分析し、創造的に自分の表現意図を歌唱で表現できるようにします。
・音楽理論・音楽史・副科声楽や独唱の授業で学んだことの応用力が必要です。一人の力でできないことも、チームとして仲間と支え合い、意見交換をしながら互いの感性を高めあい、聴く人を感動させる合唱作りをします。
・地域、大阪府のイベントなどにおいて実践的に発表する機会を持ち、社会における音楽の役割について実践を通して学ぶ機会とします。

2　学習の到達目標

声楽に関する専門的な学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力を次の通り育成することを目指す。
【知識及び技能】楽曲の表現内容について理解を深めるとともに、創造的に歌唱表現するために必要な技能を身に付けるようにする。【思考力・判断力・表現力等】音楽性豊かな表現について考え、表現意図を明確にもつことができるようにする。
【学びに向かう力、人間性等】音楽性豊かな表現を追求する態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・楽曲の表現内容について、曲想、歌詞、音楽の構造などに加え、文化的･歴史的背景との関わりなどについて理解をしている。【知識】 ・自分の表現意図をもって､創造的に歌唱表現するために必要な技能(曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能や、表現形態の特徴を生かして歌う技能など)を身につけて、歌唱で表している。【技能】	歌詞の内容や、言葉の持つ語感について考え､音楽の構造を分析し、フレーズや楽曲全体をどのように歌うか、他の声部との関わり合いをどのように歌うかによって表現意図を持っている。また楽曲の文化的・歴史的背景や様式を踏まえた歌い方などについて考え、音楽性豊かな表現について考え、創意工夫の過程において知識技能を生かし、どのように歌うかについて表現意図を持っている。	様々な時代や様式の音楽、地域やジャンルなどによって異なる多様な音楽について主体的に学習し、自分の声種や声の特徴などを生かした音楽性豊かな表現を追求する過程に関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価します。年度末評定については専攻によって評価の比率が異なるため、教科担当より説明します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	題材	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
通年	新入生を迎えて～発声・ハーモニー練習・エチュードでサウンド作り	【ルーティーントレーニング】 ・Bach の Canon、Canon 他 基礎的な3和音のハーモニーを美しく歌う。音色作り。 ・わらべ歌エクササイズ 《だるまさん》:オスティナートと旋律をカノン形式にすることで、合唱においても一人ひとりが自発的に音楽性豊かに歌唱する習慣をつける。 《ひらいたひらいた》:だるまさんの上声部に重ね、難易度を上げてトレーニングする。 《さくらさくら》:トーンクラスターの響きに慣れる	a:【知】 ・ハーモニーのトレーニングやそれぞれの作品では特に音色、リズム、速度、旋律、歌詞、強弱などと共に、楽譜に表記されていることを正しく理解している。 ・表現内容について、曲想、英語や日本語、ラテン語などの歌詞の内容、音楽の構成などに加え、作曲家や作詞家の文化的・歴史的背景などの関わりについて理解している。 【技】ベルカント唱法を基本とした発声で、英語・日本語、ラテン語の発音、身体の使い方などの技能を身につけ、どのように歌うかについて歌唱で表現している。 b:曲種に応じた発声で、歌詞の内容や、言葉の持つ語感とフレージングについて考え、音楽の構造を分析し、創意工夫の過程において知識技能を生かし深めながら、どのように歌うかについて表現意図を持っている。 c:それぞれの作品が作られた音楽や様式について、自分の声種を確立しながら、声の特徴を生かした音楽性豊かな表現に関心をもち、他者と協力しながら、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	声のカルテ	声のカルテ	声のカルテ 見取り
前期	のびのびと声を出して合唱しよう	①　新入生歓迎ミニコンサート:2･3年生による演奏 これまで受け継がれてきた夕陽サウンドの音に触れ、これからの学習する合唱のイメージを具体的に持つ。 ②　個人の声のカルテ作り:パート分け ③　楽しい曲想にのって伸び伸びと声をして歌唱する導入曲 ・無理のない発声及び正しい発音での歌唱技術習得に向けてのトレーニング(作品の中で実践的に行う。) ・曲の構成と各パートの役割、細かな拍子の取り方の変化やアーティキュレーションについて自らの演奏を比較聴取しながら豊かな音楽表現となるように楽譜に基づいた創意工夫をしながら表現意図を持って歌う。			アセスメントシート①(創意工夫)	小編成での合唱または個人の録音課題

※令和４年度以降入学生用

	歌詞の内容や言葉の抑揚と音楽・旋律、音楽構成を考える	④ 《合唱作品への取り組み》 日本語に限らず、英語、ラテン語、ドイツ語、イタリア語などによる合唱作品に取り組む(曲目は4月にメンバーとパート分けが決定してから決定)。詩の内容と音楽の諸要素との関りについて考察し、表現力と読譜力の伸長を図り、他者と協働して大きな作品を歌い上げる歌唱力を身に着ける。 ⑤ 《定期演奏会プログラム》 管弦楽とともに演奏する大きなスケールの曲に対して、曲種に応じて発声や楽曲の文化的・歴史的背景を踏まえた歌い方を考え、表現意図を合唱で表すことができる。		レポート 実技テスト(個人と演奏会での総評価)	レポート アセスメントシート② 実技テスト アセスメントシート③(定期演奏会前)	レポート 観察 セスメントシート② 実技テスト アセスメントシート③(定期演奏会前)

※令和４年度以降入学生用

後期	クラシックホールの演奏会で合唱する	⑥　定期演奏会で、これまでの学習成果を発表する。 ⑦各種大阪駅等、地域へのアウトリーチ活動としての演奏会， ウィーン音楽う研修旅行での現地演奏会で披露する宗教曲・日本の唱歌、他アカペラ作品にも挑戦する。 古典の作品を取り上げ、シンプルなハーモニーを美しく響かせて歌唱し、音楽性豊かな表現の幅を広げて演奏できるような歌唱力も身につける Ave verum corpus Bach Cantata BWV147 Haendel:ハレルヤなど （曲目は進度に合わせて変更する）	a:【知】ウィーンの現地で行きた宗教活動が営まれる教会での文化や作法を知り、実践できるようなマナーを身につける。建築物の響きに合わせたハーモニーの文化的背景を理解し、それに相応しい発声法を知る。 【技】ベルカント唱法を基本とした発声で、英語・日本語、ラテン語の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、どのように歌うかについて歌唱で表している。教会音楽や宗教音楽の学びから、ハーモニーを美しく奏でられるような御術を身につける b：時には作品が求めるならば、ベルカント唱法以外の曲種に応じた発声も挑戦し、歌詞の内容や、言葉の持つ語感とフレージングについて考え、音楽の構造を分析し、創意工夫の過程において知識技能を生かし深めながら、どのように歌うかについて表現意図をもっている。また美しいハーモニーを作るための工夫を行うことができる。 c:それぞれの作品が作られた音楽や様式やジャンルについて、自分の声種を確立しながら、声の特徴を生かした音楽性豊かな表現に関心をもち、他者と協力しながら、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	定期演奏会の実演における公開試験 実技試験	アセスメントシート④（定期演奏会後） アセスメントシート②（曲の訳詞等を作成） 実技試験	観察 アセスメントシート④（定期演奏会後） アセスメントシート②（曲の訳詞等を作成） 実技試験

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度
※　生徒の実態に合わせて、曲目を変えることがあります。
※　感染対策として全員での合唱が難しくなった場合は、多重録音や動画撮影による課題など、状況に応じて実技試験や内容等を変更する場合があります。